

一般社団法人 日本小児矯正研究会

「学会発」なのに読みやすい。子どもの成長と歯をテーマに、季節の話題に連動した保護者向け専門家コラムを定期配信しています。

1. 一般社団法人 日本小児矯正研究会とは

一般社団法人日本小児矯正研究会は、小児矯正を「歯並びの治療」ととどめず、子どもの成長発達そのものに向き合う医療として捉え、発育期の成長を活かした口腔医療の普及を目的に活動しています。歯列不正はその背景にある顎の成長や、呼吸・嚥下・咀嚼といった口腔機能の発達と深く関係しており、こうした成長過程に着目した総合的な視点から、小児期の健やかな成長を支える医療のあり方を探究しています。

会員数	約1,500名(歯科医師・専門家)
専門領域	床矯正・バイオフィUNCTIONALセラピー(BFT)の研究・普及
認定医制度	あり(全国の認定医一覧: https://jsro.jp/certified-doctors/)
情報の学術的根拠	統括指導医・花田真也著『床矯正治療の臨床 バイオフィUNCTIONALセラピーという新しいアプローチ』(医歯薬出版, 2022)
公式サイト	https://jsro.jp/

2. コンテンツ企画の特徴

企業や個人クリニックではなく「学会」が保護者向け情報発信の主体となっていることは、国内の歯科医療分野において極めて希少です。当研究会では2026年3月より、月2回のペースで専門家コラムを定期配信しています。

■ 学会員による執筆

学会が設定した年間テーマに基づき、学会会員(歯科医師・専門家)が執筆します。外部委託による一般的なコンテンツ制作ではなく、現場の最前線にいる専門家ならではの実践知を届けることを目的としています。テーマ設定や編集方針の主導権は学会が保持し、個人の主観に寄らない「学会としての公的な見解」として質と一貫性を担保しています。

■ 社会的モーメントとの連動

新学期・学校健診・長期休暇・感染症シーズンなど、保護者の関心が高まるタイミングに合わせてテーマを設定し、年間計画のもとで継続発信しています。単なる学術情報の発信にとどまらず、保護者の生活文脈に沿った切り口で専門知識を届けることを重視しています。

■ 継続的な信頼の蓄積

定期配信を継続することで、「情報発信を続けている信頼できる専門家集団」としての認知が形成されます。メディアが専門家コメントや取材先として継続的に活用できる情報源を目指しています。

年間配信ロードマップ（モーメントカレンダー）

2026年3月配信開始を想定した、季節性・社会的モーメントとの連動スケジュール

3月	4月	5月	6月	7月
 進級・新学期準備	 学校健診・身体測定	 健診結果受取	 梅雨・室内時間増	 夏休み前・通知表
Vol.1 新学期 子どもの成長と口腔環境の チェックポイント	Vol.2 行政動線 「要観察」と言われた保護者の 視点	Vol.3 意思決定 「様子見」で良いのか迷った ときの判断基準	Vol.4 デジタル デジタル時代の姿勢と口腔の 話	Vol.5 長期休暇 夏休みに注目する成長期の口 の変化
8月	9月	10月	11月	12月
 夏期休暇・帰省	 新学期・防災	 最低賃金改定・値上げ	 乾燥・感染症流行	 年末・来年の展望
Vol.6 生活習慣 低年齢から始まる生活習慣の 影響	Vol.7 情報格差 共有されにくい医療情報の現 状	Vol.8 経済情勢 物価高時代の医療費と向き合 う情報整理	Vol.9 健康管理 感染症流行期に見直す呼吸と 口の状態	Vol.10 社会変化 環境が変わる今、考える口腔 の役割

13

3. 配信コラム一覧（2026年3月～）

以下のコラムはすべて取材・転載対応可能です。

配信時期	社会的文脈	コラムテーマ
2026年3月前半	新学期準備	子どもの成長と口腔環境のチェックポイント（前編）
2026年3月後半	新学期・歯科健診	良い歯の日に知ってほしい、歯並び治療は「あごを育てること」から（後編）
2026年4月前半	学校健診・要観察	学校健診シーズン到来——「要観察」と言われた保護者が知っておきたい視点
2026年4月後半	給食開始・GW前	給食スタートの時期に注目「子どもの歯とあごの成長」、家でのサポートを専門家が解説
2026年5月前半	食の自立・健診結果受取	「様子見」でいい場合・そうでない場合の判断基準（配信予定）
2026年5月後半～	梅雨・夏休み・感染症など	年間モーメントカレンダーに沿って継続配信予定

バックナンバー：<https://jsro.jp/leaning/>

プレスリリース一覧：https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company_id/177582

4. 取材・素材提供について

当研究会の会員は、歯並びや噛み合わせを単独の問題として捉えるのではなく、子どもの成長発達全体を見据えながら口腔に向き合うことを診療の基本としています。「子どもの成長と歯」をテーマにした取材・企画・専門家コメントの提供が可能です。

また当研究会では、メディアの皆様への取材対応および素材提供を積極的に行っています。

- ・ 全コラムの取材・転載対応可
- ・ 執筆者（副理事長・米崎美桜）への取材対応可
- ・ 統括指導医・花田真也へのインタビュー対応可

- ・ 新理事長・杉岡真一へのインタビュー対応可
- ・ 画像・テキスト素材の提供可

5. 執筆者プロフィール

副理事長 米崎 美桜(よねざき みおう)

医療法人社団 若林歯科 院長(愛知県豊田市)。日本小児矯正研究会 副理事長。専門家コラムの主執筆者として、保護者向けの情報発信を担当。

理事・統括指導医 花田 真也(はなだしんや)

日本小児矯正研究会 初代理事長・現統括指導医。著書『床矯正治療の臨床 バイオフィUNCTIONALセラピーという新しいアプローチ』(医歯薬出版, 2022)は当コラムシリーズの参考文献として活用。

理事長 杉岡 真也(すぎおか しんいち)

医療法人杉岡歯科医院 院長(京都府福知山市)。2026年4月より理事長就任。東北大学歯学部卒業後、口腔外科での勤務を経て2000年に開業。小児矯正に約20年携わる。

お問い合わせ

一般社団法人 日本小児矯正研究会 広報担当

Mail: koho@jsro.jp

Web: <https://jsro.jp/>